

第71回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：2022年6月18日(土) 10:25～11:40

口演発表 (学位口演発表) 10:30～10:50

口演発表 (一般口演発表) 10:50～11:40

Zoomミーティングによるオンライン開催

連絡先：福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

1. <https://forms.gle/JmrdvCzNshPkcaJ39> から参加登録を済ませてください。
2. 入室後、発表者と座長以外は、マイクoff, カメラoff にしてください。
3. 討議の際には「手を挙げる」機能を使い、座長の指示を待ってください。

発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を前田（E-mail：t-maeda@den.ohu-u.ac.jp）までテキスト添付にてご送信ください。（800字程度）

2. 口演発表

1) 口演発表

- ①Zoom画面共有機能で、各自発表者が共有開始をしてください。
- ②参加者の環境機器は、多様である事が予想されます。スライドの文字サイズ等に配慮してください。
- ③動画の使用は推奨いたしません。もし使用の際には、Zoomでの共有に最適化してください。また、動画音声共有の有無には注意してください。
- ④学会開催前日午後4時30分からZoomにて試写を行います。
IDパスワードは学会当日と共通です。
- ⑤利益相反 (COI) の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反 (COI) 開示について」の題目で報告をしてください。

2) 口演時間

演者は、口演開始10分前に次演者席に着席してください。口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。時間の経過については、タイマーを用意いたします。

第71回奥羽大学歯学会プログラム

10:25 開会の辞

瀬川 洋 会長

一口演発表(学位口演2演題、一般口演4演題)一

10:30～11:00

座長 鈴木 史彦

10:30～10:40

1. 輪状甲状靭帯穿刺に関連した解剖学的形態計測

○鈴木海路、宇佐美晶信

(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)

研修コード1101 関連項目 (1) 0301 (2) 0304

10:40～10:50

2. ラット上顎骨における神経分布密度の免疫組織化学的解析

○森山 光¹、安部仁晴²、山崎信也¹

(奥羽大・大学院・生体管理¹、奥羽大・歯・生体構造²)

研修コード1101 関連項目 (1) 0402 (2) 1105

10:50～11:00

3. 横紋筋肉腫の治療により歯の形成障害を来した患児の長期管理の1例

○中川雄介、角田 望、石橋奈美、舟山敦雄、神庭優衣、加川千鶴世、島村和宏

(奥羽大・歯・成長発育歯)

研修コード0801 関連項目 (1) 0804 (2) 1101

座長 南 健太郎

11:10～11:20

4. *In vitro*におけるラクトフェリン抗ウイルス作用の解析

○小林美智代¹、前田豊信²、遊佐淳子³、加藤靖正²、廣瀬公治¹

(奥羽大・歯・口腔衛生¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²、

奥羽大・歯・口腔病態解析制御³)

研修コード0306 関連項目 (1) 1103 関連項目 (2) 1104

11:20～11:30

5. 口腔由来*Veillonella*属細菌新菌種の提案

○眞島いづみ、清浦有祐

(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0901

11:30 ~ 11:40

6. うま味刺激誘導性顎舌下腺唾液のプロテオーム解析

○古山 昭¹、大須賀謙二¹、川合 宏仁^{1,2}
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・大学院・口腔生理・生化学²)

研修コード1106 関連項目 (1) 0502 (2) 1107

11:40 閉会の辞

川合 宏仁 副会長

口 演 発 表 抄 録（一般口演発表）

10：30～10：50

1. 輪状甲状靭帯穿刺に関連した解剖学的形態計測

○鈴木海路、宇佐美晶信
(奥羽大・大学院・口腔機能解剖)

気道確保の方法に輪状甲状靭帯穿刺がある。輪状甲状靭帯穿刺の器具を適切に選択する為に、身長と輪状甲状靭帯周囲形態との関連について実習体において計測をおこなった。その結果、輪状甲状靭帯周囲の空隙は平均で、幅 20.0 ± 5.2 mm、高さ 8.9 ± 1.8 mm、深さ 20.4 ± 2.7 mm、輪状軟骨板後端までの直線が気管長軸となす角度は $66.1 \pm 7.3^\circ$ であった。身長と輪状甲状靭帯の計測結果の間には一部で相関がみられた。

研修コード1101 関連項目 (1) 0301 (2) 0304

2. ラット上顎骨における神経分布密度の免疫組織化学的解析

○森山 光¹、安部仁晴²、山崎信也¹
(奥羽大・大学院・生体管理¹、奥羽大・歯・生体構造²)

歯科における効果的な局所麻酔には、顎骨の神経分布密度を知ることが重要である。過去に下顎骨の神経分布密度についての研究報告はあるが、上顎骨の神経分布密度に関する報告はない。本研究では、上顎骨を歯槽頂から上歯槽神経まで5つの領域に分け、それらの神経分布密度について検討した。その結果、下顎骨と同様に、上顎骨でも上歯槽神経に近づくほど神経分布密度が上昇する傾向が見られたが、神経分布密度は下顎骨よりも全体的に少ないことが示唆された。

研修コード1101 関連項目 (1) 0402 (2) 1105

10：50～11：40

3. 横紋筋肉腫の治療により歯の形成障害を来した患児の長期管理の1例

○中川雄介、角田 望、石橋奈美、舟山敦雄、神庭優衣、加川千鶴世、島村和宏
(奥羽大・歯・成長発育歯)

横紋筋肉腫は小児期に発生する悪性腫瘍のなかでは頻度が高いものの、年間100万人あたり4.5人と稀な疾患である。今回、左耳介下部原発横紋筋肉腫と診断され治療を受けた患児の、長期にわたる歯科的管理を行う機会を得た。

患児は横紋筋肉腫の治療のための抗腫瘍薬と放射線照射の影響により歯の発育障害が起き、複数歯に歯冠・歯根の形成異常や萌出障害がみられた。約6年間にわたり口腔管理を継続してきたので、その概要を報告する。

研修コード0801 関連項目 (1) 0804 (2) 1101

4. *In vitro*におけるラクトフェリン抗ウイルス作用の解析

○小林美智代¹、前田豊信²、遊佐淳子³、加藤靖正²、廣瀬公治¹
(奥羽大・歯・口腔衛生¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²、
奥羽大・歯・口腔病態解析制御³)

ラクトフェリン (LF) は抗ウイルス作用をもち安全で容易に入手できるペプチドである。本研究では、ウシ LF の抗ウイルス作用を肺癌由来株細胞と大腸癌由来株細胞を用いて検討した。その結果、LF は各種細胞のインターフェロン、および抗ウイルスタンパク産生を亢進させた。さらに、LF は SARS-CoV 2 疑似ウイルス感染を抑制した。本研究費用の一部は、令和3年度学長裁量経費教育研究プロジェクト経費 (学裁費2) を用いた。

研修コード0306 関連項目 (1) 1103 (2) 1104

5. 口腔由来 *Veillonella* 属細菌新菌種の提案

○眞島いづみ、清浦有祐
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御)

ヒト口腔内には約800菌種の細菌が生息しており、そのうち約半数が未同定 (菌名が付いていない) である。本研究では、口腔マイクロバイーム (微生物叢) データベースの拡充を目的とし、これら未同定口腔細菌の系統分類を進めている。その一環として、健康なタイ児童口腔より分離された未同定 S12025-13株の形態、性状、遺伝子解析を行った結果、本株を *Veillonella* 属細菌の新菌種として提唱できる可能性が示唆されたため、本発表ではその詳細について報告する。

研修コード1104 関連項目 (1) 1103 (2) 0901

6. うま味刺激誘導性顎舌下腺唾液のプロテオーム解析

○古山 昭¹、大須賀謙二¹、川合 宏仁^{1,2}
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・大学院・口腔生理・生化学²)

うま味刺激により、刺激後数10分にわたり持続的に唾液分泌が亢進する。我々は従来の安静時や刺激時の唾液よりも、うま味誘導性の持続的唾液は概日リズムや喫煙などの生理的変動の影響を受け易いことを示唆するデータを得ており、疾病バイオマーカーの探索に好適である可能性が示唆される。そこで我々は、うま味刺激により誘導される顎舌下腺唾液を用いてプロテオーム解析を行い、喫煙の影響を受けやすい唾液タンパク質の同定を試みたので報告する。

研修コード1106 関連項目 (1) 0502 (2) 1107

第72回奥羽大学歯学会予定
日時：2022年11月12日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳（成長発育歯）*、前田豊信（口腔機能分子）*、宇佐美晶信（生体構造）、
島村和宏（成長発育歯）、菊井徹哉（歯科保存）、古山 昭（口腔機能分子）、
大橋明石（口腔衛生）、御代田駿（口腔外科）、千葉駿一郎（歯科保存）

*学会委員会理事
